
物ノ音

由雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

物ノ音

【Nコード】

N2622P

【作者名】

由雨

【あらすじ】

物の声が聞こえると言う不思議な力を持った少年、村野圭吾

高校生になった彼が出会ったのは、同じく不思議な力を持つ人達そんな彼等と相棒の腕時計クロと力を合わせて降りかかるトラブルを解決できるのか？

第一話（前書き）

初めて書かせていただく小説になります

つたない所ばかりだと思えますが読んでいただければ幸いです

随時修正して行くのでよろしく願います

第一話

俺（村野圭吾）は、物心ついた時から物の声が聞こえる
これが特別な事なんて思わなかったし、皆聞こえるもんだと思って
いた

幼稚園の時は、変わった子供ぐらいに思われたのか周りの大人も子供も何も言わなかった

ところが、小学校に入学してから話は、変わった

「物が話す訳ねーじゃん」

「嘘つき」

皆から嘘つき呼ばわりされ俺は、物の声が聞こえる事を誰にも話さ
なくなっただけ・・・

そして、そのまま小学、中学と卒業して明日から高校生になる
そんな事を考えながら一人暮らしの準備をしていると

「おめでとうございます坊ちゃん」

と声が聞こえた

この声の主は、俺の祖父ちゃんが愛用しているカップだ

昔から何かと俺の心配をしてくれるいい奴？いいカップなんだが

「無事高校に受かって私は、嬉しいのですが坊ちゃんにもう会えな
くなると思うとうっ」

いかんせん涙もろいのが玉にキズだ

「一生会えなくなるって訳じゃないだろう？長期休みの時は、帰っ
てくるし」

「それでも爺は、寂しいのです。」

本当にオレ思いのいいカップだ

そういえば中学の時に分かったことがあるんだが
どうやらオレは、全ての物の声が聞こえる訳ではないらしい
誰かに大切にされた物じゃなきゃダメみたいだ

まあ、例外もあるんだが

実際、祖父ちゃん愛用のカップの声は、聞こえるが
母さんが買ってきた新品のコップは、聞こえない

まあ、ウチには、大切にされた物がたくさんあるから騒々しいのに
は変わらないんだが

「爺さん、圭吾の事は、オレに任せろって」
そう声を出したのは、俺の右手の時計だ
名前は、クロ

時計って何て言うのって親父に聞いたとき何故か親父がクロックだ
よって英語で教えてくれ

クロックの最初を取ってクロだ

小学校の入学祝いで買って貰って腕が大きくなるたびにベルトを交
換して貰って今じゃもう9年の付き合いになる

「オレがコイツの面倒見てやるからよ」

「じゃが、やっぱり爺もついて行った方が」

「ダメだろ、そしたら祖父ちゃんがコーヒー飲めなくなって困るだ
ろ」

正直、俺も寂しい

小学生の時、友達がいなかったオレの話し相手になってくれたしな
だけど、毎日心配されるのは、正直ちょっと・・・

「爺、オレのいない間・・・この家守ってくれるか？こんな事爺に
しか頼めないんだ」

話しながらクロの方をチラ見すると

「そうだぜ、爺さん！ココを守るのはアンタしかいないぜ」

オレの意図をすぐに理解しクロが加勢に入ってくれた

流石9年の付き合いは、伊達じゃないな

「わ・・・わかりましたー、坊ちゃんがそこまで頼むのであるならこの爺カップの取っ手が取れるまでこの身が割れるまでこの家を守らせていただきます」

爺は、おだてやのせられに弱いからな

「はて、しかしどうやって守れば」

爺が話してる途中で祖父ちゃんがやってきた

「おおー、ワシのカップこんなとこにあったのか。さて、今日はブルマンを飲もうかの」

と言い爺を持って行ってしまった

「坊ちゃん、私はどうやって家をお守りすればー」
遠くなる爺の声

「あー、連れてかれちゃったな」

クロにそう言おうと

「そうだな」

何だか可笑しくなり二人で笑ってしまった

「早く荷造り終わらせちまえよ」

「そうだな」

明日が、引越し

明後日が入学式

どんな高校生活になるのか楽しみだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2622p/>

物ノ音

2010年12月2日15時38分発行